

縁の下の力持ち

中山 泰雄¹

本学の情報科学センターには技術補佐員が戸畑キャンパス、飯塚キャンパスともに14名程度が在籍している。我々は通常夜間操作員とよんでいる。情報科学センターの運営には表だっては見えないが、彼らの働きが非常に大きい要素を占めている。例えば今回の利用の手引1冊にしても、操作員の分担で作成されていたことにお気づきであろうか。限られたセンター職員では捌ききれない、多種多量の運用業務の1端を担ってくれているのが彼ら操作員である。特に、センターの機種更新時には、彼らの存在なくしてはとてども円滑な更新作業は実現しなかったであろう。

この操作員制度はセンターの前身である、情報処理教育センターの初代センター長（現情報工学科長吉田教授）の発案になるものであるが、学部生から採用することは他大学センターではなかなか実現しがたく、現在もなお羨望的となっている。年により異なるが、採用時の面接はなかなか難しく、毎年決定に苦勞したものであるが、彼らが2、3年後に素晴らしい成長ぶりを見せてくれると、選考に間違いはなかった、と喜んだものである。操作員OBで、現在情報科学センター、情報工学科に教官として活躍している例をみても期待に背かなかったといえよう。

また、筆者の講義科目についても、IBM時代のソフトの移植が1人の操作員の努力で完成し、4月からの授業が無事新システムで開始出来てほっとしたものだ。これも操作員の能力の高さを示す一例である。

操作員の教育も先輩が後輩を指導するのが通例であり、出来るだけセンター職員の手を煩わさないのが建前になっている。事実その指導状況を見ても、なかなか厳しい場面に出くわすこともあった。

時代の流れで、操作員にも女子学生が希望し、採用後その頑張りの1面を見せてくれるようになった。過去には留学生の希望者も有ったが、人事係に問い合わせると、当時は採用にあたっての条件が外国人を除くとあり、残念だが見送りとなった。外国人の教官も実現した今日、この壁も取り除かれるのも近いうちであろう。

初期の操作員時代は、まだこれほどコンピュータが普及していない頃であったから、ハングリー状態も大きく、操作員の特権も絶大なものがあつた。いまではパソコンも気楽に購入できる時代となり、ハングリーな状態は殆どなくなったが、やはり操作員にとっては色々とメリットが大きいようである。

¹工学部電気工学科情報工学教室

演習を伴うセンターでの授業については、4月の最初の頃の演習では、手のすいた操作員の演習補助が、講義担当者には有難い存在になっていることも、知って頂きたいことの一つである。

操作員たちは職務であると同時にクラブ活動的な面もあり、毎年の工大祭では屋台ばやりのなかで、各種パソコンでの応用例の展示などが、異色を放っていることは充分ご存じと思う。

情報処理教育センター発足以来住み慣れた教官室から、筆者は明年3月別れを告げることになった。筆者の職務の一端は彼ら夜間操作員の助けにより全う出来たといっても過言ではないだろう。この広報が目に触れることのないOBを含めて感謝の意を表したい。